

平成28年度第1回 滝川市環境市民委員会の開催結果について

開催日時	平成28年8月17日（水） 午後3時～午後4時30分
開催場所	滝川市役所3階 301会議室
出席状況	【委員】 出席：石川委員長、山田副委員長、越後委員、貝之瀬委員、栗井委員、浜田委員、高橋委員、本多委員、水戸委員 欠席：藤本委員 【事務局】 市民生活部 館部長、石川次長 〃 暮らし支援課 横山課長、大橋係長、山本主任主事
議事内容	1. 開会 2. 年次報告書の作成及び公表について 報告書の素案（資料2）について、物語ごとに事務局から説明を行った。 各委員からの意見などは次のとおり。 【資源の環（わ）循環 物語】 委 員）：フリマーケットの情報発信はどんな方法で登録できて、登録者はどれくらいいるのか。 事務局）：電話でもメールでも登録は可能。現在の登録件数は81件で、昨年度は3回フリマーケットの情報を送った。 委 員）：今後も増やしていくのか？現状維持で行くのか？違う形に変えていくのか。 事務局）：現状維持というよりは、もっと登録者数を増やしたいと考えているので、登録の周知などを行いたい。 【創（そう）エネ・省（しょう）エネ物語】 委 員）：2（1）の消エネモニターの実施の二酸化炭素排出量の推移グラフの色がそれぞれ何の燃料を示しているのかがよくわからない。 事務局）：下から順番に灯油→電気→ガソリン→ガスの順番。グラフは、白黒でもわかりやすいように訂正する。 委 員）：2（4）①の生ごみのエネルギー利用でメタンガスを取り出しているとのことだが、取り出す時に電気を使用しているのか。 事務局）：ある程度電気は使用している。メタンガスをエネルギーにして発電しているが、その電気を施設で使用している。 委 員）：メタンガスを発生させる時に使う電気は差し引かれているのか。 事務局）：差し引かれてはいない。 委 員）：ここでのいう発電量とは、単純にメタンガスをエネルギーにして、発電した数値なのか。 事務局）：そういうことになる。

委 員)：太陽光発電について、それぞれの施設で自家消費している施設と余った分を北電へ売電している施設の比率はあるのか。

事務局)：そこまでの統計はとっていない。滝川市役所に関しては、売電までの発電量までには至っていない。他の施設については、そこまで確認はとっていない。

委 員)：滝川高校、第三小学校では、北電で買っている電気がある。ふれ愛の里は自家消費分だけ。

委 員)：グライダー滑空場に行く途中に大きな太陽光パネルがあるが、あれはどのものか。

事務局)：市の土地を利用して、民間の会社が発電している。

そのような施設は、市内に4か所程度ある。昨年度は東栄小学校の跡地にメガソーラーができた。今まで使用されていなかった空地进行を有効活用している。

【農・山・川（ノー・ザン・リバー）物語】

委 員)：これまで植樹したものは、おおよそ何%くらいまでは森として育っているのか。聞いた話だと、思うように生育されていない。

事務局)：所管が農政課なので、そこまでの詳しいデータを持っていない。ただ、生育状況が芳しくないという状況も含め、今後は生育のメンテナンスに力を入れていくと聞いている。

委 員)：農業体験授業について、実際に取り組んだ31校の反響とか感想は？経験から何かを学んだなどがあれば教えてほしい。

事務局)：所管が別ということもあり、直に聞いているということではないが、自然に触れてもらうという原体験が非常に大事だと感じている。やはり机で話だけを聞いても理解できないことも実際に体験すると理解が深まる。家庭菜園をやっている家も少なくなっているため、実際に野菜がなっているところを見てもらうのはとても大事な取組だと思うので、今後も継続していきたい。

委 員)：泥んこになって何かを作るという体験はとてもいいことだと思う。今はテレビで農業を取り上げていて、社会的に農業が注目されている。

事務局)：2次環境基本計画を策定する際も、越後委員さんから保育所でもやっているという話を聞いていた。

委 員)：本校では、5年生が元PTA役員の圃場を借りて、JAに手伝ってもらいながら農業体験を行っている。江部乙は田舎だが、実際に農業体験をした子ども達が少なく、とてもよい経験になっている。報告書には反映されていないが、江部乙小学校では、3年生が菜の花の栽培、4年生がそばの栽培を行っている。

委 員)：いろんなところで農業体験授業に取り組んでいるのに、数字として出てこないのは、もったいない話である。

【人の環（わ）づくり物語】

委 員）：エコ部！についてだが、若い人たちがこういう活動に参加するというのは、3年前まではなかったのでもっともいいことだと思う。これをずっと続けて、幅広い世代の若者たちが関わるようにしてほしい。

委 員）：環境関連イベントとは主にどんなイベントで、どのような方法で評価をとったか。

事務局）：去年は、環境市民大会だけで評価をいただいた。評価方法はアンケートで評価点をとっている。

委 員）：年によっては、違うイベントも関係してくるのか。

事務局）：そうなることもある。

委 員）：たきかわエコネットの運営についてだが、情報発信とはどのようにしたのか。

事務局）：エコネットによる情報発信は市のホームページ上で発信している。基本的には団体からの情報掲載の依頼を受けてホームページにアップしているが、去年は少なかったという反省もあるので、今年はより多くの情報を発信することを目指して活動している。

3. その他

（1） エコライフたきかわ運動について

（2） 二酸化炭素排出抑制対策事業費について

（3） 滝川市内高校生ボランティアチーム「エコ部！」の活動について

（4） 平成28年度滝川市環境市民大会

委 員）：今年度の「エコ部！」の活動については、昨年より3歩も4歩も進んでいると感じている。今後の取組にも大いに期待している。

（5） 次回の開催に日程について

【全体を通して】

委 員）：「エコ部！」の通年の取組を、高校生自らが考えて行うというあるべき方向に持っていくために、どのような働きかけ（導入）をしているのか。大人が決めたことだけだと、やらされ感が出てしまう。

事務局）：年度初めでまだ事業も行っておらず、何もわからない段階で高校生が自分たちで何をするのかを考えてもらうのもなかなか難しいことから、今まで、我々が企画してそれをやらしてもらおうという傾向が強かった。

今年は、一定の活動を自ら行った後、冬の時間のあるときに翌年の活動について高校生が考える時間や勉強会を設けてもよいと思っており、高校生が主体となって活動できる方向に持っていきたいと考えている。

委 員）：「エコ部！」の通年の取組のなかでボトルキャップの回収があるが、こういった形での回収をしなければ、燃えるごみとして燃やす際のエネルギー

	源になるが、こういう形で回収すると燃やすためのエネルギーが減ってしまう。エネクリーンではごみを燃やしたエネルギーで発電しているのだから、一定のエネルギーが必要だがどのように考えているのか。 事務局)：確かにエネルギーロスにはなるが、リサイクル意識の向上、障がい者雇用の促進につながり、それ以上の効果があると思って取組を始めた。 全体でみるとボトルキャップの全てを100%回収できるわけではないので、リサイクル意識を高める意味合いが強い。 委員)：先日、リサイクリーンに資源ごみとして段ボールを持ち込んだら、ガムテープがついていたので、燃やせるごみに回された。 何かの機会にガムテープをはがして出してくださいと周知が必要ではないか。 委員)：クラフトテープであれば、段ボールと同じ扱いで問題ない。 委員)：町内会の回収業者は、ガムテープがついていても持っていく。 事務局)：リサイクリーンは中空知衛生施設組合が運営しているため、市で回収しているものと基準が若干違うこともある。市で巡回回収している際は、特にはがすといった指導はしていない。 委員)：実際業者は、ガムテープがついていると扱いづらいのか。 事務局)：回収している業者によって基準が違うので何とも言えない。 事務局)：旧粗大センターで行っている拠点回収はガムテープがついていても問題ない。 ※後日中空知衛生施設組合に確認したところ、ガムテープの有無で資源ごみから外すことはないとのこと。段ボールが防水加工をした特殊な物であったとか、他の理由で燃やせるごみに回されたものと思われる。
--	---